

英国に於ける社会奉仕教育

菅 支 那 子

社会奉仕という言葉は比較的新しい近代語の一つで、国民各自の幸福を増進するためいろいろと対策が講じられるにつれて、一般に用いられるようになったのであるが、この社会奉仕の特長を最もよく示すのは今日の英国であろう。漠然と用いられがちなので、どの程度までの奉仕事業を「社会的」と呼ぶかについては、一致した意見が見られない。しかし一般福祉に資す官民活動とは別の社会奉仕の特色は、個々人の幸福に直接、関係あるものだといふことが出来る。公益事業にとつては、国民に提供した援助は果して適当であつたか、効果的に活用されているかが主な関心事であるのに反し、社会事業はその援助が個々人に及ぼす効果と、それを受ける人々の人間関係に関心を持つている。従つて、社会奉仕の根底は窮境にある他人を助けるべきだと、私共が感ずる義務感にあり、しかもその義務感は、私共が同じ共同社会に互いに属しているとの意識に始まつている。この共同社会意識は家族、種属、近隣等に狭く限られもするし、人類全体に拡大されるもする。後者の例としては、アルバート・シュヴァイツァ

ーが中央アフリカの原始民達に医療保護を与えるため、歐洲での光輝ある音楽的生活を棄て、ダミアン神父が太平洋孤島の癩患者にその生涯を奉げたような意味にも、拡大されるのである。極めて親密な農村社会から高度に産業化された都市社会へと、社会機構が複雑になるにつれて、「我が隣りとは誰なるか(ルカ伝一〇の廿九)」といふ問題と「その人に憐みを施したる者なり(ルカ伝一〇の卅七)」との解答の意味を、徹底的に考え直すことが必要になつた。十六世紀に始り、十九世紀の初頭に最高潮に達した農業、産業革命が、国の外観のみならず、全社会機構を变革するにつれて、英国民が直面したのはこの問題であつた。十九世紀から廿世紀の初めにかけて、政治家、慈善事業家、著述家、思想家達は变革された社会状態に應じるのに必要な、社会福祉と社会的義務について、新たな概念を探し求めて来た。その概念は国民各自の幸福を増進するのを目的とする、多くの官民両者の奉仕事業に具体化されるようになった。これが所謂、今日の英国で理解される社会奉仕事業である。

ここに至る重要な第一歩は十六世紀に始まつた。一六〇一年、あの有名な救貧法の成立によつて、貧困、老齢、盲目、不具、無能者達に、その家族が扶養能力のない場合は、必要品を支給し、職なき健康者には職を与え、困窮児童には職業を見習わせるのが、その地域社会の義務となつた。しかし、産業革命の頃になつて、放任主義の経済論は、マルサスの人口論と合流して、人々の生活状態を憂慮する為政者の心を窒息させてしまつた。殊に一八三四年の救貧法修正に際し、公的扶助を受け得る条件は増々困難、益々不愉快なものになり、扶助を受ける者には、極貧者という社会的汚名がつくうになつた。この残酷な制度は幾分、民間慈善事業によつて緩和することが出来た。この頃から無数の慈善事業団体が屢々、宗教的基礎にたつて樹立された。しかし窮乏の全部をみたすには大海の一滴に過ぎなかつた。又救貧法は至つて不評判で、殊にそれには社会的汚名がつくので、多くの人々は公的扶助を申請するよりも、極度の苦難に堪えるという有様であつた。

国家が初めて国民の福祉に責任を感じたのは、先ず教育面に於てであつた。十九世紀初頭までの貧困者の教育は、主として英国国教会と結びついて、或いは独立教会の努力によつて、大いに發展したが、一八三五年、時の政府は僅かの金額をこれら二団体に貸与した。これがきつかけとなつて、一八七六年の教育法令により、小学校就学は十才まで、国民の

義務となつた。しかし一八九一年に至るまで、小学教育は全然、無料ではなかつた。漸く一九〇六年、自由党になつてから、その後の數年間に、社会福祉に関する国家の機能の概念は全面的に變革され、学童の給食、検疫を行うようになり、引き続き七十才に達した困窮者には一週五シルの老齡年金を支給することになつた。その支給額は僅かだつたが、その法令が有する意義には、誠に重大なものがあつた。その時以來、福祉國家に至る歩みは急速だつたといえる。今日では、國家の手でなされる社会奉仕によつて、國民は公營の助産婦に助けられてこの世に誕生した時から、全国保険基金より死亡下付金を受けて葬式をすませ、公墓地に埋葬される迄、直接間接に、國家の社会奉仕にあずかるわけである。

このような國民各自の幸福に対する法令上の責任についての思想は、ひいては社会奉仕の範圍を變えることになつた。僅かの階級差別しか認められぬ簡単な社会にあつては、社会奉仕は一個人が困つてゐる隣人に与える援助に過ぎぬが、貧富差の甚だしい社会にあつては、その援助は富者が貧者に与える慈善となつてしまふ。かくしてヴィクトリア女王治下の英國は富者と貧者の二國家に分れ、与える者と受ける者に分けられてしまつた。富者はその富と閑暇を提供することを期待され、貧者はその贈りものを感じて受け、恩恵者に対しては身を低く処してゐることが当然だと考えられた。ところが今日、社会は遙かに平等の方向に進みつつある。主要な社

会奉仕は国民全体のために、社会全体がこれを提供し、支払うように變つて来た。このような社会奉仕が意味する思想の變革と共に、社会奉仕事業そのものの範圍にも變化が起つた。その前兆は第二次大戦前にも見られたが、社会奉仕に対する態度の眞の變化は、大戦と共に生じたといわれている。僅か半世紀前には、少数の社会改良家は個人の福祉の責任は政府がとるべきだと主張し、大多数の社会改良家達はその責任を個人から取りあげることは悲惨だと叫んだ。各人の子供達に衣食を与え、彼らを教育するのは両親の義務だ、というのが常だつた。その家族を扶養し、老齢にそなえて貯えて置くのは人たるものの責任だ、失業や病氣中も家族を養い、誕生と結婚と死亡に伴う費用を包含するものを貯蓄して置くのは、彼の義務だと強調した。人間の性格が損われないうために、これらの義務は凡てその個人が負うべきだと論じられた。ところが爆撃下にあつては、共通の危険に直面して、社会の全員を糺合せねばならなかつた。その結果、既に述べたような態度は根本的に修正され、社会奉仕事業を、相互扶助と保護の国家的機構に變える道を、急速に準備することになつた。

戦前には兎角、何が社会奉仕かについて議論が繰返された。しかし元高等文官であり、その後次々にロンドン経済大学学長、オックスフォード・ユニバーシティ・カレッジの学長となつたウキリアム・ビバリッジ卿は、社会保障とその

社会事業教育特集

他の社会法令を戦後再編成する問題に関する調査研究報告を、政府から依頼された。その結果は、あの有名な一九四二年のビバリッジ報告書である。「社会保障とそれに関連した奉仕事業に関する一報告書」と題されたに過ぎぬものであるが、これこそは廿世紀に於ける英国の歴史的文書で、事實、英国史上、劃期的事件だといふべきであろう。それは公式文書の中で、個々の国民と協力して、社会進歩の途上に横たわる「五大悪」と戦う構想の下に、社会保障を包括的に実行する責任は、国家がこれをとるべきだ、と初めて主張しているからである。ここでビバリッジが五大悪といふのは欠乏、疾弊、無知、不潔、失業である。立法行政によつて、これらの五大悪に挑戦することは、一九四二年の英国政府にとつて、特に新しい事柄ではなかつた。全く新しいと思われるのは、それら凡てに對して包括的に聖戦の必要なことを述べて、政府がその責任をひき受けた点にあつた。ビバリッジ報告書は直接には五大悪中の一つ、欠乏（収入の欠如）に關してであつたが、欠乏に關する彼の提案は、遙かに広義の社会保障の「わく」の中で扱われるべきことを希望している。従つてこの報告書の提案は單なる一政党でなく、全政党によつて取りあげられるべきであつた。社会立法綱領の大部分を實行することを意味した。そこで社会奉仕事業は、以上の五大悪を征服することを意図して、一つの協定政策にまとめられることになつた。そのため衛生、教育、産業、その他の福祉事業間に

あつた凡ての機能的區別は取り去られてしまつた。若しあるとすれば、扱い方、重点の置き方、各部門専門化の相異に過ぎぬことになつた。

斯くして戦後の英国では、大体次のような社会保障方針の實行が公約されているわけである。

(1) 何らかの方法によつて、雇傭の程度を高く保つて置くことは、各政府の責任である。経済組織の内的欠陥又は海外の暴落の如き外部から生ずる、真に重大な失業を防止し得るためである。

(2) 普通一般の職業に不相応な者又は相応する者が就職を希望する際には、その失業者と扶養家族が明らかな欠陥に陥らぬだけの収入を保証せねばならぬ。

(3) 病人、負傷者、かせぐ力を失つた者に対しては、恢復するまで収入を保証せねばならぬ。復職又は新しい職業の訓練が必要な場合には、その方法が講じられるべきである。

(4) 働く時期を過ぎ、隠退の権利を得た高齢者や扶養家族のある寡婦に対しては、貯蓄のあるなしにかかわらず、相当な生活をするに足る年金が考慮されねばならない。

(5) 長子を除く他の子供達には現金支給がなされねばならぬ。これは多くの場合、収入は家族に対する責任と無関係だといふ立前から、両親が貧困だと子供達を虐待し、その素質を低下させるかも知れぬことを憂慮してのはからいてある。

(6) 子供のための現金支給の外に、更に牛乳、学校給食等の如き物品のサービスがなされるべきである。又やがて母となる場合や乳児保育中の母には、特別の援助があり、幼児や児童の福祉のためには、一般公共の施設がなければならぬ。

(7) 財産や職業のあるなしにかかわらず、全人口のために、家庭医、歯科、眼科、臨床、専門医、団体扱いを含めて、総合的な医療奉仕が無料でなされるべきである。

(8) 自分の家庭で、普通の生活を営むことの出来ぬ高齢者のためには、適当な設備が講じられねばならぬ。

(9) 盲目、聾啞、不具、精神病の如き特別困難な事情にある者のためには、特殊の奉仕がなければならぬ。

(10) 凡ゆる種類の学校教育は、公費でなされるべきである。即ち凡ての児童のための初等、中等教育、十八才以前に学校をやめる者のためには定時制の連続教育をするべきである。且つ大学や技術大学では高等教育が、そして成人教育を希望し、それによつて何らかの利益が得られる者のためには、十分な対策が講じられるべきである。

(11) 凡ての国民が相当な家に住み、健康な社会生活をするのに必要なサービスと環境を提供するのは、国家の責任である。これは貧民窟を取払い、人口過剰を防ぎ、現代文明の標準にかなつた状態に町村を計画し、再計画することを意味する。

右にあげた項目は、過去半世紀に亘り進められつつあつた英国社会政策が、最高潮に達した姿の素描である。英国民の生活状態には、静かで平和な社会革命が起りつつある。又その社会的価値の變革には、誠に測り知れないものがある。このような社会奉仕事業の發展に力があつたのは、何といつても、男女全人口を含む有権者の拡大に帰因するといえよう。

そして個々の国民の幸福増進のために、国家が演ずる役割は益々拡大され、全人口に及ぶ程に社会奉仕の範圍が増大して来たことは、英国社会の質的變化でなくて何であらう。事實、社会奉仕の給付金は、今や国民の権利の一つと考えられるようになった。それを受けることを恥とする必要もなければ、為政者はその受納者が不適当だとの理由で、その給付金をさしひかえもしなくなつた。このような見解の大變化は、貧困であることを殆ど犯罪のように感じていた多くの入人を、みじめな恥の意識から解放することが出来た。法令による社会奉仕が増加すると、公私の責任を率先してとることが少なくなり、その責任を拒絶する結果になることは、一般に恐れられているところである。しかしこのような奉仕事業を始めることに努力した人々は、ただ生活必需品を受ける活動だけに没頭することから、男女を解放すれば、その能力をもつと効果的に用い、人生をよりよく充実する機会を与えられると考へたのであろう。それを實現するため、社会生活を処理するのが、現代の英国に於ける大きな挑戦であるらしい。

このように社会奉仕の範圍が拡大され、法令上の責任と結びついて考えられるようになる、それは機械的に運ばれ、人間に関する事業の性格を失う危険がある。しかし今日、英国の社会奉仕事業は、同時に人間の行為と人間関係の問題に關心を持つようになつて来ているのは、不思議な逆説といふべきである。過去に於ては貧困、公衆衛生、ながい労働時間や不満足な労働条件等の諸問題が差し迫つていたので、社会改革者達は主としてそれらの問題に集注した。ところが今日の社会学者、社会行政官、社会事業家が直面する緊急問題は、離婚数の増大、少年犯罪の蔓延、給料や条件がよくなつたにもかかわらず労働者がおそわられている不満足と失意等、病める社会の徴候である。これこそ物質的必要というよりも、心理的不適応の問題である。多くのこつと細かい心づかいを以て扱わねばならず、集団的よりも個人的技術を必要とする問題である。そのためには想像力ある同情と忍耐、智慧と理解が必要であり、人間精神とその作用に関する知識、その対象者が住む社会の文化等について知らねばならぬのである。

この英国に於ける社会事業の質的變化こそは、将来の社会事業家の選抜と教育を増々、重要にさせる所以である。人間関係を適応させる困難な仕事に従事する場合、如何に善意であつても未熟であれば、善よりも害を及ぼすことは、今や一般が認めるところである。訓練を受けない一時的特志家のために、尙仕事があるとは言え、責任ある職場は注意深い監督

の下に、理論並びに實際方面の特殊教育を受けた、その事業に献身する人々が占めねばならぬのである。今日の社会奉仕事業の最も重要な発展は、社会事業家の教育が進歩して来たこと、種々なる社会事業的職業が出現して来たこと、しかもそれらが次第に認められて来た事実と関連していると言われねばならぬ。

以上に述べた英国社会奉仕事業の現状を要約すると、(1) 国家が増々積極的且つ重要な役割を占めるようになり、延いては国民の基本的必要をみたす責任を、次第にとるようになった事(2) 社会的又は経済的階級の差別なしに、全社会を含む程に社会奉仕の範囲が拡大した事(3) 与えられる給付金又はサービスを権利として受けとるようになった事(4) 物質上の必要をみたすと同様、人間関係の調節を増々重視するようになった事(5) 社会問題の研究に対しては科学的態度をとり、社会調査が発展して来、従つて社会事業は専門的職業として成長して来た事等である。

このような大且つ重要な社会奉仕事業に従事する働きの知識、素養、技術、即ち教育は如何にあるべきだろうか。英国の社会事業教育は既に一九〇年頃、ウィメンズ・ユニバーシティ・セトウルメント隣保館長、マーガレット・シーウエルが計画した、講習に始まつたと言われる。一九〇一年には、ロンドン社会経済大学が社会事業教育を取り上げ、リパブル大学がそれに続いた。一九〇八年、社会事業の学生

を始めて学内生として登録し、その教育の全責任を引き受けたのはパーミンガム大学であつた。ブリストル・リーズ、マンチェスターの諸大学がそれに続いた。そして今日では、この外に十二の総合大学が、社会科、社会管理の課程を置いており、ロンドン大学の如きは、ベッドフォード(女子大学) キング、ロンドン経済政治大学、大学拡張部の個人指導協議会等、四つの大学で同じ学科課程を提供しているのである。

更に一九二七年、児童相談運動が英国に入り込んで来た時、児童相談所と共に児童相談協議会が設立された。その主要目的は、神経性やその軽微な徴候を示す児童を、特殊技術を以て扱う対策を促進するにあつた。その結果として、ロンドン経済政治大学の社会学部では、精神病医的社会事業家養成の方法が講じられた。次いで一九二八年、卅余カ国から千人以上の社会事業家がパリに集まつたが、これは実に記憶すべき出来事であつた。この会議出席者の主なグループは、社会事業教育の原理と方法について専心、研究し、社会事業大学国際委員会をつくつたからである。英国内に於ても、社会事業家が相寄り、一九三五年、英国社会事業家連盟を組織した。その綱領の主なものとは社会事業家のため適当な職業教育を主張している。

次に政府と各大学の社会事業学部の間、その教育に関して活潑な協力が見られ始めたことは注目し得る。例えば保

護視察事業に従事すべき候補者が、ロンドン、リバプール、バーミンガムの諸大学で二年間の教育を受け、法廷で実習した、が如きである。この試みが大成功であつた報告が、社会事業家側からでなくて、公式の委員会から出たことは、一層、社会事業教育を促進する結果になつた。同じような試みは、「青年指導」者達のために、教育学部と社会事業学部合同でなされた。今次大戦が齎した喜ぶべき影響は、中央地方を問わず政府の殆どどの部門に於ても、福祉施設の必要が感じられ、それに関連して訓練を受けた社会事業家が任命されるという傾向である。これらの例が示すように、大学こそ最も適当な社会事業家養成の中心だ、と考えられるようになった。

勿論、大学自体の中で、養成不賛成の段階が繰返されたとは言え、今日では英国の諸大学は古い新しいに關係なく、増々、公事に携つて来ている。教授達は重要な任務を委託され、政府關係の理事会や委員会のために働き、多くの分野で社会問題調査の責任を負うている。この最も代表的な例は、既に述べた有名なババリッジ報告書で、これがオックスフォード・カレッジ学長の勞作であるの言う迄もない。今日、大学教授は学者であると同時に、過去に於いてよりも遙かに善き市民だと言える。大戦直前の調査によると、大学教授達は広範囲で学外の公共並びに社会事業に携り、それが引いては社会のためにも教授のためにもなつてることが報告され

ている。

同様に、主な社会事業団体も、時代と共に進歩して行つた。政府並びに民間の諸活動の間には、新しい協力の技術が出来上り、兩者間には、働きの健康な交換が行われるようになった。社会事業は最早、中年の裕福な未婚婦人や退職した官吏、或いは実業家の領分ではなくなつた。その範囲は拡大し、その標準は高く厳しいものになつた。大学を卒業したせぬにかかわらず、多くの青年男女は、周知の職業より、天職として公共的、社会的事業に献身することを熱望している。又最近はそのことの出来る機会が開けて来た。更に教会や宗教団体の社会活動も、大いに變つて来たと言わねばならぬ。以前のように偏狭で、自己満足的ではなくなつた。世俗的と宗教的団体の境界線は最早、認められなくなつた。要するに社会事業の執行、管理は、その文字の持つ最善の意味で、その教育のため、それ独自の高い標準を持つ職業となつたのである。

殊に大学はその教授法の性格の故に、社会事業教育のためには最善の施設である。そこでは社会事業の方法や組織の基盤として、社会と人間進歩に対する、公正な精神態度が強調される。理論や社会哲学を背景として持つことは、社会事業学徒にとつて欠くべからざるものである。質問し、思考し、批評し、評価することを学ばねばならぬ。しかもそのような背景は、政策をたて、行動を指導する人々の素養として大切

なばかりでない。人間関係を扱う男女にとつても、少なからず必要である。不断に変化してやまない複雑な社会に、その任務を持つ社会事業家に対し、そのような研究の機会を否定することは、社会事業を二流三流の職業に墮落させ、多くの社会奉仕事業のために、事実のみを詰め込んだ人間を求める結果になる。又大学の雰囲気や伝統には、政治や党派的目的のために用いられる危険を防ぐものがある。社会の政治行政は政党政治に殆ど隣接しているため、社会事業志望者は出来る限り公平無私な態度を有する人々の感化の下に、教育を受ける必要がある。殊に現代の冷酷な経済的事実に始めてぶつかる時も、大学精神の価値を過大視することは殆どあり得ない。歴史的研究に於ては過去の生活に自分を投射して、現在と関係づけて見るだろう。かくして得た正しい判断力は、将来の生活に必ずや役立つことであろう。広範囲に亘る学科目、静かな図書館、学友との接触等々は、学外でなされる最善の職業教育よりも、広い見解と捕われぬ心と態度を与えるに違いない。それ故、大学がこの新しい職業の適当な訓練場であるのは理の当然であろう。

尚今日、英国の諸大学で社会事業家教育のために提供されている基礎的な学科目には、社会理論、社会史、経済・産業史、社会経済学、社会哲学、政治哲学と社会倫理、社会管理、社会事業の原理と実践、中央地方政治行政、社会立法等の外に生物学、心理学が加えられている。更に人間的接触を

意味する社会奉仕には、健康な人間の行動や性格、人格確立について学ぶことが必要とされている。しかし心理学や人間行動の分析を強調し過ぎて、社会哲学の訓練を無視するのは如何なものであろう。英国社会事業協会は、社会科学と社会哲学の両方が社会問題を効果的に扱うのに必要だ、と勧めている。

勿論、社会事業教育は、三つの原則の上に打ち建てられているということが出来る。一つには、アカデミックな講義と出来る限りの読書、二つには、十分に計画された実習、健康な労働者階級を観察する機会、三つには、社会事業一般の研究と実習に続いて、各部門の専門化が行われるべきことは既に試験すみの原則である。社会事業の実習は物理学や化学の実験室に於ける実験、医学に於ける病院の手術場や臨床と屢屢、比較される。そのような比較には幾分価値があるにしても、社会についての研究は自然科学のそれとは全く別個のものであるから、大して役にはたさない。現代の社会生活問題は科学的研究をするのに都合よく、整然とならべられてはいない。従つて、実習はアカデミックな授業と結びついて計画されるのが大切である。まわり燈籠の如く学生の脳裡をかける無数の事実や概念が整理されるよう、工夫されねばならぬ。このようなアカデミックな研究と実習が適当に結合されることは、容易でない。しかもそれは健全な社会事業教育には基本的な問題である。但し一年に廿四週から卅週の期間

に、講義と実習がなされるのでは、実習が短か過ぎるのは言う迄もない。講義の始まる前とか休暇中に、相当連続的に実習がなされるのが望ましい。しかしこれは社会事業教育を担当している施設が、一年のうちのある期間、殊に仕事が緩慢になる恐れのある夏季休暇中に、非常に込みあうことになる。この困難を救う興味ある試みは、労働者のために各大学が提案したもので、二カ月ずつの研究期の中に、一カ月の実習をはさむことであつた。かく実習が大切だと云つても、大部分は学生各自の今迄の準備や将来の計画によることである。例えば社会科学の特別コースの試験に合格して優等で学位をとつた卒業生は、更に新しい学科を選択して、一般の学生よりも多くの時間を実習に当てる事が出来る。実際の経験を多く積んだ年輩の学生は、学究的研究により多くの時間を費すこともあろう。各大学、各学生の事情に応じて、いろいろに決めてよいわけである。しかし既に述べたように、アカデミックな研究と実習が密接に結びつくべきだとの原理は、社会事業教育に専念している人々がこれを一様に強調するのは言う迄もない。

実習に関するもう一つの困難は、如何して最も適当な実習場を選ぶかという問題である。実習のために適当な施設が容易に得られるという理由で、医学、教育、自然科学等の学生に対して、大学は喜んでその責任をひき受ける。ところが公式に大学があまり知らない多くの社会施設から、如何にし

て適当な実習場を選び出すことが出来るだろうか。ここに大学当局が、大学隣保館を実習学校として認める、最も強力な論拠を見ることが出来る。しかし実習の責任の凡てを、隣保館に譲り渡すことは不可能であらう。最も包括的な隣保館の方法には、幾分、特殊なものがある。学生はそこで各種の社会事業従事者と接する便宜を持つことが出来るが、主として同じ目的、同じ標準、時には同じ言葉づかいをする人々と生活し、働くことになる。そして全く別個の雰囲気の中に平然と飛び込むには、準備不十分である。従つて、この困難打解のため、社会事業方法と実習の教師を任命することが、英国では既に久しく行われている。この種の教師は、学問的資格の上に、いろいろな社会管理に参加していること、官民社会事業に近密な接触を持つ人であること、が望まれている。且つ健全な判断力と人々を扱う技術は、この教師にとつて必須条件である。このデューター組織は、社会事業のそれぞれ部門の権威者が定時的に指導に当ることによつて、一層、拡大し得る可能性がある。これの面白い実例としてロンドン経済政治大学に於ける精神衛生の学科では、精神病医社会事業の教授の監督の下に、実習が行われている。

要するに実習の眼目は、人生の真相、人生の問題、更にそれを扱う方法を把握する機会を提供することである。学生は如何が行われているかを見、善き事業と拙い事業を識別するこ

とを学ぶだろう。普通一般の学生は設備の整つた事務室で働くことを気持よく感ずるだろうが、生れながらの社会事業家は氣持のよい待合室やよく記入されたカード式索引は大切ではあるが、そこに漂う歓迎と希望、奨励と友愛の雰圍氣の方が、遙かに重要なことを感ずる筈である。それ故、よく計画された実習の第一条件は、普通一般の労働階級の生活に接近する機会を提供することである。更に今後の社会事業家は、社会事業の学科を学ぶに先立ち、少なくとも一年内、生活の資を稼ぐことが望まれている。これは予め訓練のいらぬ産業又は職業につくことを意味する。経験ある事務官が保護観察官にならうとしている教育ある一婦人に、先ず、一年間工場で働くことを勧めた例があるが、この忠言には多くの良識があると思われる。このような提案には、実際問題としていろいろ困難があるにしても、平等な立場で仲間の労働者とわかまらずに接触することは、両者間の壁を破り、無意識裡に陥り易い、恩にきせるような社会事業家タイプをなくすることに役立つだろう。

このような労働階級の諸問題処理には、当然、ケース・ワークとして近づくことになる。英国では慈善団体協議会（C・O・S）が社会事業家教育の先駆者であつたが、その名称は兎に角として、ケース・ワークを力強く支持していることは、注目に値する。悲しみ、憂い、病氣、罪のない社会は考えられないが、そのような人生から引き離すことの出

来ぬ問題は、規則や秤でなくして、個々の困難な問題を忠実に、忍耐深く、且つ学究的に研究することによつてのみ、これを解決することが出来るのである。慈善団体協議会が、徹底的、科学的にケース・ワークをしていることは衆目の一致するところで、その事務室は申し分のない訓練場を提供していると言われている。学生はそこで凡ゆる種類、凡ゆる状態の人々に接触するわけである。最初は、自分自身の弱点の犠牲者、又は社会的経済的組織の犠牲者から出發するにしても、彼を扱ううちに、家主、医者、教師、貧困者の法律家、質屋、金貸し、生活扶助局員、親戚等にいろいろな場面で見舞ふことになる。そしてながい期間の失業、人員過剩、家庭生活の不和等が及ぼす影響やこれらの巨人的悪の相互作用について学ぶことだろう。ケース・ワークの基礎を学んだ後には、更に他の種類の経験を必要がある。学生の実習に関する諸大学協議会の研究報告は、非常に広範圍の活動を取りあげている。均衡のとれた実習計画には、フレイザ、サイモン、友愛、愛、労働組合、労働者教育協会等々の如く、独立した自治団体の活動にも、当然、参加する機会を与えらるべきである。この種の経験は、将来の社会事業家教育の本質的要素で、人間の理解と兄弟愛、平等の意識をつくり出すのに役立つであろう。

言ひ迄もなく、施設見學は実習と混同さるべきではない。組織だつた学科課程の重要部分であり、講義の説明として役

立つよう、注意して計画することが望まれる。見学先の選択は、社会事業学部之責任者、中央・地方政府関係、社会施設等に関係ある教授及び実習の責任者と協議の上でなされるべきである。社会的再生のための常設機関以外に、学校、成人学級、住宅地帯、コミュニティ・センター、工場、炭鉱、町会会議、労働組合大会、婦人協同組合、友愛会等を含めて、見学することが必要である。見学そのものは知識の拡充を意味するが、又調査研究の訓練でもある。見学に際して十分な記録を取つて置くこと、見学責任の教師のみでなく、他の学科の教師との対論の材料ともなり、後々まで続けて行けば、貴重な資料になるだろう。

社会調査は特殊な科学的訓練であるが、実習の一方法ではない。殆ど凡ての社会的活動には、社会データを集める絶好の機会が提供されている。ひろい社会的訓練と統計の心得があれば、社会施設や労働組合、工場等の従事者は、日常生活の中に重要な事実を観察し、記録することが出来る。この意味で、社会学の研究者は社会的教育を受けていなければならず、反対に社会事業家は調査方法を心得ておかねばならぬのである。

要するに社会事業は一つのまとまつた存在というよりも、異成分から出来上つた一群団、多くの職業の混和だと言ねばならぬ。この意味からして、一定の教育標準を打ち立てることは、他のどの職業よりも一層、困難だと思われる。しか

社会事業教育特集

し社会事業の従事者は一つの部門から他の部門に移ることの出来る人々で、社会目的という公分母を有する人々の集団だということが出来よう。この点で、高度に専門化した米國社会事業とは異なつて考えらるべきである。同じ社会理論と実習の一般的教育は彼ら凡てに必要な条件である。そしてその後に、専門分野の教育が続くべきである。社会事業の部門は、英國でも益々専門的になり、組織化されて来ているが、多少とも大学と関係あるものに就いて述べると、先ず社会医学がある。これは人間の福祉をはかる上で、同類の部門を集めた恐らく最も完全な例であらう。英國では、衛生省の高官、ジョージ・ニューマンが医学と社会事業間の密接な協力を初めて主唱した。凡ゆる医療社会事業の根柢には、彼の原理が横わたつている。彼の言葉で言えば、「人々は環境から孤立して生きることが出来ない。人間の健康と病気を研究するには、彼の住む環境を考慮に入れねばならぬ。」このようにして始まつた運動は、今日、病院社会事業部医師組織として樹立され、診断と処置の共同作業に欠くべからざるものになつている。

病院社会奉仕、既に一九二四年以来、病院社会事業家学会の名称の下に、諸大学の社会事業学部と提携して、その教育の責任を引き受けている。その学会には、それに属した教師がいて、専門教育の学科を担当し、証書を与えている。又訓練を受けた者の就職に関しては、労働省が認可した職業安定

所を持つている。大学との提携と社会医学の最初の原理は今も通用するが、将来の医療社会事業チームのため、様々な社会の要請に依じて新しい組合が考慮されている。このチームには、専門医、一般医、学校看護婦、地区看護婦、産婆、病院社会事業家、精神病医社会事業家、更に広範囲の補助的治療法を心得ている保健婦が含まれている。このうち病院社会事業家と精神病医社会事業家のみが「社会的」一面を主にして教育を受けた、資格のある社会事業の専門家である。英国で理解される保健婦は、人々の家庭、特に妊婦や小さな子供のある家庭を自由に訪問出来る、素晴らしい機会を与えられている。その任務は、主として健康上の注意を与える、予防医学に関するものである。事実上の一般医というよりは、連絡官というところであろう。しかし保健婦は正規看護婦であり、公衆衛生教育を受けた公認産婆でなければならぬ。その教育は主に医学に関するものであるが、健康訪問は家族を単位とする社会事業の一種であり、事実、社会的、経済的方面が考慮されねばならぬという見地から、保健婦の教育には、社会問題に関する学科を加えるよう、保健婦教育諮問委員会が提案している。

精神病医社会事業家、英国に於けるこの教育は、他のどの部門より最も進んでいると言われる。病院社会事業家と共通なものもあるが、社会科学の学位免状或いはそれと同等な研究をした者であつて、更に専門的な精神病独自の訓練を受け

なければならぬ。精神病医社会事業家と他の卒業後更に研究する者との根本的相異は、前者が教授であつて同時に経験ある医者 の指導の下に、専門教育を受ける点である。彼ららもとより心理学、精神病医学、その他同類の理論方面の研究並びに児童相談所や精神病院での実習を大学指導の下に、するのである。ロンドン政治経済大学はこの方面の最初にして唯一の機関であつたが、近來は、エディンバラ大学が同じ教育している。

厚生事業、第二次大戦が終る頃から、再建と厚生 の困難な問題、即ち様々な救援事業、引揚げ、食物の支給、燃料、住居、医療品補給、凡ゆる種類の社会奉仕再開始に直面して、十三の社会事業家協会を代表して、英国社会事業家連盟は保健省に覚書を送つている。そして個人並びに共同社会再建の奉仕事業には、社会立法や地方政治に通じ、ケース・ワークに経験のある、訓練された社会事業家が特に適していること、このような総括的奉仕を実行するには、工場監督官に匹敵する新しい種類の公務員が必要なこと、を指摘している。

学校社会奉仕、世界各国に於けると同様、英国でも学校は近來、益々社会奉仕活動の中心になつて來た。しかしその新しい任務を遂行するのに、特にそのための教育を受けた働き人を欠いている。戦中戦後を問わず、宿割りの役人、食事助方、古着商人、ミルク配給者、その他教師の任務以外の何でも、骨の折れる仕事を負わされて來た。このような過重の任

務に対しては、そのための教育を受けた専任の社会事業家が任命されるべきだと、全国教師組合は「学校固有でない任務の問題」についての小冊子の中で、大いに衆目を集めている。しかししもつと積極的な学校社会奉仕の任務は、児童を校外でも、社会的に引き続き見護つて行くことである。

青年指導、戦後、補習学校——今は大学と呼ばれている——は最も効果的な社会奉仕として説明され、教育局は「青年奉仕は典型的教育奉仕だ」と述べている。青年指導者の教育に対して、プリストル、ダラム、リバプール、マンチェスター、ロンドン、シェフィールド、メッティンガム大学等に於ては、社会科学部と教育学部が協力して、面白い試みを始めている。Y・W・C・Aや全国少女クラブ協会は、青年指導者のための高程度の教育運動で、重要な役割を演じて来た。後者は今日、尙、大学の社会科学部と協力して、その職業教育を続けている。

年少労働、学校生活と就職との間の過度期に関する社会教育で、全国年少者雇用協会は、戦後、職業指導の目的で、「心理検査」に多くの努力を払っている。そして年少労働事業を希望する学生の学科目には、心理検査を含むよう、大学当局に訴えている。ここにも、将来の社会事業家教育で、大学と協力すべき分野がある。青年指導者と年少労働の指導者は大学の学科目中、共通なものを見出す筈だし、人事管理に携わる人々も同じ学科を取つてよいわけである。

社会事業教育特集

施設児童の福祉、児童ホームや少年ホステルの寮監又は校長に關連して、施設福祉が社会事業教育の立場から看過されてはならない。英国のこの方面の施設には、ドクター・バーナード・ホーム（孤児院）やよく統制された内務省認可学校から特殊児童学級のための小さなホームに至るまで、多くのものがあるが、普通、後者のためには、公認看護婦又は教師が求められている。しかし児童の家庭環境に理解ある社会事業家がそのような施設の長になることは、一層有利だと思われる。しかもそれを実現するには、「児童福祉」が社会事業大学の専門部門の一つとして認められることが望まれる。これには勿論、教育学部と協力し、青年指導、年少労働、年少不良化問題の研究と關連して、発展させる急務がある。尙、ドクター・バーナード・ホーム評議委員会は従業員訓練学校を經營している。

コミュニティー・センター、隣保館、ネーバーフッド・センター従事者の教育に対して、英国居住向きの隣保館協会は、凡ゆる種類の共同社会活動の訓練が必要だと主張している。そしてこれは当然、家族ケース・ワーク、青年指導、家族管理等と結びついたものである。しかしそれ独特の技術と指導原理、素養を要する事業であるのはいやいないな。

人事管理と産業福祉、第一次大戦前、小規模で始まった工場の福祉事業は、過去廿五年の間に、職業が標準の高い人事管理、労務管理に發展した。今では一般福利事業と社会的娘

社会事業教育特集

業以外に、使用者の選抜と転任、心理的觀察と職業指導、安全行動、宿制、教育、身体的医療的保護等々に及んでいる。一九一三年創設された福祉事業家学会は、一九廿四年、それ自身の職業安定所、情報部、月刊雑誌と図書館、教育委員会を持つた、労務管理学会と合流した。その後、この学会は諸大^学と教育上の提携を確立する為、大いに努力するところがあつた。その学科目は社会科学部social science departmentのそれと同じであるが、勿論、産業史、法律、産業関係と産業心理、職業指導が強調されている。実習方面には、社会管理の經驗を得る方法が含まれており、この学会が規定する工場經驗をそれに補足して課している。この学会はそれ自身の証書を出さず、大学の学位免状や証書を受け入れる点、他の団体とは違つている。以上の教育方針を實行するため、大学側は現代産業の実状に通ずる教授を任命するし、他方、労務管理に關心を持つ協会と雇用主や雇用者団体の代表から成る顧問委員会を各大学毎に設けて、學理と實際の近密な關係を築こうとしている。又特に注目してゐるのは、工場勞務者中の適当な男女にも、教育の機会を与えるべきだといふ、この学会の提案である。これは第二次大戦中、最も立派な工場管理候補者は、工場の職工であつたといふ經驗によるものである。尙、工場看護婦は看護婦と福祉司の役を兼ねねばならぬ場合がある。その必要に応じて、九カ月間の社会奉仕教育が看護婦訓練に加えて提供されてゐる。その学科目には、社会管理や産業に關する科目が含まれ

ている。又大会社や工場の栄養士又は食堂監督は、キングス・カレッジが提供してゐるような家政学と社会科学の二重の教育を受けねばならない。殊に栄養食や食物価値に關する限り、家政学は社会科学と協力しなければならぬのである。

法廷社会事業、保護觀察に關する教育は、恐らく最も著しい進歩を遂げたと言われている。先ず諸大学の援助を求め、その教育費用の責任をひき受けたのは、内務省であつた。しかし一九二五年、刑事裁判法令が発令されて、保護觀察官は絶対になつた。警察裁判所で社会奉仕する機会が新たに生じて来た。そして社会事業の他の部門と違つて、女子よりも男子の働き人が多く要求された。一九三七年、内相は保護觀察教育委員会の指導の下に、選抜と教育に關する計画に承認した。そして二年間の教育を社会科学部social science departmentですることに成り、社会事業の教育又は經驗のある者には、短縮講義がなされた。この試みで興味あるのは、その教育に關する限り、性の區別がなされなかつた点である。同じ任務に対しては、同じ教育が男女に要求されるわけである。内務省と諸大学間の珍しい協力によつて、多くの貴い試みがなされた。有力な全国保護觀察者協会の暖かい後援が、この国費で大切な任務のために男女を教育する計画を、大いに成功させる力となつたのである。保護觀察者の場合と同様、少年審判所の判事、法廷の事務官、異状行動や道徳的不健康状態に關心ある人々も、教育される必要があるのは言う迄もない。尙、更生館、認可学

校、非行少年を扱うその他の施設等の館長の訓練も重要である。このような教育は当然、半ばは社会教育、半ばは法令施行に関するもので、ここでも社会の事業のいろいろな部門が互いに協力融和すべき必要を示されているわけである。

家屋管理者、オクタビア・ヒルが一八八〇年代の終り頃、教育ある少数の婦人を集めて、もののわかつた家作主達に、家賃戸毎に集めるよりそれ以上の事が必要だ、と確信させた時、家屋管理は収獲ある一種の社会事業として、初めて認められる様になつた。彼女が人間生活には相当な家が根本的に必要だとはつきり感じていた点で、同時代の人々より遙かに進んでいたと言わねばならぬ。大部分は彼女がその管理者を教育したが、それには教師や看護婦に比すべき組織的な教育が緊要だと信じていた。第一次大戦を契機として、容易ならぬ住宅難は、オクタビア・ヒルが行なつた家屋管理に関する素晴らしい試みを、今更の如く大切なものにした。既に一九二〇年頃、家政学と社会科学を教えるキングス・カレッジ、ロンドン経済政治大学、不動産管理大学が合同して、適当な教育をする案があつたが、実現の運びに至らなかつた。現在の教育は家屋管理者協会が運んでいる。廿才以下の学生は三年を必要とするが、大学卒業の資格ある者には、一年から二年の教育を要求している。社会事業部との関係は、他の部門のようには明らかにしていないが、適当な実経験と社会科の免状のある者は、短期の見習期間の後、その仕事を始め、働き

つつそれ以上の職業教育を受けて、家屋管理者の証書をとることの出来る仕組になつてゐる。

道徳福祉と教育関係事業リバプールのジョセフ・バトラリー記念館には、全国からキリスト教各派の学生が集まり、二年と一学期内寄宿して教育を受けている。その教育は、社会事業学部の問題と方法に関する学科学科に及んでゐる。これは諸大学と宗教団体間の協力の貴重な先例を作つてゐる。英国国教会に於ける宗教関係事業従事者教育の一部として、現代の社会問題や社会事業が必要なのは、カンタベリーとヨークの大主教が、合同で任命した委員会が一九四三年出した報告によつて、知ることが出来る。そして今日では、教育関係事業従事者の最高級の教育として、社会科の免状又はそれと同等な資格を必要としているのである。尚、救世軍では、選拔された婦人土官が社会事業大学の全時間制の授業に出席して、免状を得るようとりはからつてゐる。

家族ケース・ワークは凡ての健康な社会的処置の根底であるが、それ独自の教育を要する大切な目的そのものだと、一番最後に認められるようになったのは不思議なことである。慈善団体協会は何世代の間、ケース・ワークが社会事業に根本的なことを主張し続けて来た。しかし今次大戦とその影響は、家族ケース・ワークをそれ自身の権利で、社会事業部門に迄高め、その訓練を経た人々にはつとめ口を多くし

社会事業教育特集

た。疎開の教訓と空襲による家なき犠牲者に家を与える問題は、無駄ではなかつた。保健省は資格ある社会事業家をその長とする福祉部を設け、地方当局でも同じことをした。その教育の機会をロンドンを除き、限られていたが、漸く一九四〇年になつて、慈善団体協会の影響の下に、家族ケース・ウォーク従事者協会が設立された。今日はその協会が、普通、社会科学免状の学科目の後に続く、一年間の教育の責任をひき受けている。これは誠に時機を得た発展であつて、篤志家のみならず、生活扶助や社会保障奉仕の公務員のため、社会事業の、認められた教育課程を持つ、一部門となるのは当然である。

生活扶助奉仕、一九三四年の失業法令によつて、ある部類の失業者に対する責任は全部、失業扶助局に移ることになつた。この扶助局は激論の後始められたが、大戦直前頃には、幸いにも日常の事務を確立し、大戦勃発と共に、あの老大な戦時の処置、困窮防止と救助(P・R・D)の運営を引き受けることが出来た。しかし全国に散々になつている公務員を教育するのは、容易の業ではない。大学合同協議会が各学部相互委員会に宛てた覚書によると、短期間の方針として、社会科学部又は大学構外での個人指導を通して、特別講義が提案されている。そのような講義では、現代の社会、産業、経済等の背景を与え、社会管理、ケース・ウォーク及び民官の社会施設見学を伴つた、面談インタビューを含むべきだと述べている。面談は社会事業のいろいろな部門に関する知識、これらの社会奉

仕を困窮者に解明する能力、助ける人と助けられる者の間に、協力関係を齎す深い理解と同情、を要する仕事である。

しかもこれらの学科目は公務員勤務時間中に提供すべきであり、その費用は関係ある課で支払うべきである。しかしながい将来のためには、十分に教育された社会事業家が、正規の局員として働き、その教育は国費でまかなうべきことを勧めている。生活扶助局は、今日社会保障制度で重要な役割を演じているが、此の後の局員補充には、大学の社会科学や同系の学科目をその条件とし、又現在の局員のうちから選抜されたある者には、大学事業の資格を得させるような方法を講じている。この局の産業協議会ホムズ・インダストリアル・カウンスルでも、局員奨励の至つて理解ある態度が示され、高度のケース・ウォーク技術の必要が説かれている。

更に社会奉仕事業に関して、諸大学で大いに論じられたのは学位の問題であつた。そして今日では、既に述べた学科目を少なくとも三年間に納めて、適当に試験をパスした者にはバチェラー・オブ・サイエンスの学位が与えられる。研究の末、かくB・S・Cに決定されたのは、その学位が職業的価値を持つようになること、余りに早く専門化する危険を考慮しての結果らしい。又哲学、経済学、歴史学等、他の学部の卒業生も、もう一年を社会事業学部の学科と実習に費すと、社会科学の免状ディプロマが与えられる仕組になつている。そして学位のある者が更に精神病医社会事業、病院社会事業、社会科学と管理等々、専門部門の学科を一年に亘りとすると、それぞれの

証書が与えられることになつてゐる。
 以上に述べて来たのは、主として社会各事業部門の教育に
 関してである。

しかし等しく重要なのは、目まぐるしく変化する現代にあつて、政策を研究、決定する責任の地位にする人々の教育である。社会奉仕の研究をした、教育された人間が必要である。ピバリッジ五大悪に対する協定政策が緊要だと主張したが、最善に計画された組織も、ただそれだけでは成功を確実にすることは出来ない。その成功は実にかかつてその指導運営の如何にあり、その運営は實際の仕事を通して、国民大衆と直接、接触する下士卒公務員の能率如何によるのみでない。遙かに少数の指導と方針決定の責任を持つ、行政官の素質によるのとは言ふ迄もない。ピバリッジ自身もこれを認めてか、公務に奉仕する機能を特に考慮に入れて、公務員を選抜し、教育すべきだと言つてゐる。

既に見て来たように、社会事業の範囲についての従来の狭い觀念は、棄て去るべきである。社会事業は單なる福祉事業でも、善事をするだけでも、ケース・ワークでも、更に困窮の救済防止でもない。それらの凡てを含み、その上、遙かにそれ以上のことを意味する。社会奉仕は共同社会全体に及び、肉体的、経済的、知的並びに精神的に平等な機会を、世界中の人々の上に創造せんとする努力である。この巨大な事業には、多くの働き人があり、多くの種類の奉仕事業がある

社会事業教育特集

が、それらは凡て、多少の差はあれ、より善き社会を実現するために、共同して働いてゐるのである。

一九五五・二二・二八
 英国カンタベリー、聖オガステン大学に於て

アメリカの学生生活

伊 東 よ ね

私は毎日実にはたしく勉強しています。大学院はケンタッキーに一つなので、種々な処から人が集まり、他の州からも来ています。何年もケースワークや社会事業の仕事をしてきた人や法律の専門家だつた人や、心理学英語の先生だつた人達などです。いまとつてゐる科目は、ソーシャル、ケースワーク、精神医学知識、社会福祉、医学知識、コミュニケーション、臨床心理学、現場実習の七科目です。殆ど自分の意見発表、ディスカッション形式です。試験が思いやられます。平均点B以上でないとはスカラシップをとりあげられてしまいます。アメリカの学生でも図書館で殆ど過ごしてゐる位です。いま住んでゐるお家の御主人は四つのお金事業施設の長をしてゐる方でいい本を沢山もつてゐるし、お話などでも私のヘルプになる事が多いです。アメリカの学生と同様に実習ではケースをもつてインタービューしています。先日ニグロのお家をたずねた時野菜をかうお金もないといわれて、あわてて施設からヘルプのお金を六弗チェックしてもらつた等これでも仲々大変な御仕事をしているんだなと感じ入つてゐます。

ケンタッキ州ルイビル大学(社会事業大学院)在学中・新制二回卒業生